

ひあがり みなみ

# 日明南1号岸壁が完成

～ 従来の3倍の貨物を一度に輸送できます ～

平成21年度より整備を進めてきた小倉日明地区の岸壁が本年2月1日に供用開始します。

日明地区は物流機能が充実した地区で、これまで鉄鋼製品を取扱う埠頭として発展してきましたが、一部の岸壁は水深が浅いため近年の船舶大型化に対応できず、利用企業は喫水調整や小型船舶で荷役するなど不便を強いられてきました。

今回、新たに日明南1号岸壁を整備したことで、日明地区における利用企業の利便性が大幅に向上することが期待されています。

## 記

### 1. 岸壁の概要

岸壁の名称 : 日明南1号岸壁  
管理者 : 北九州市  
岸壁延長 : 100m エプロン幅: 15m 岸壁水深: -5.5m 耐重力: 3<sup>t</sup>/m<sup>2</sup>  
構造形式 : 栈橋構造(下部工: 鋼管杭 上部工: RC構造)

工事期間 : 平成21年11月～平成23年1月 (要期間 1年 2ヶ月)  
供用開始 : 平成23年2月1日(港湾施設として告示)

事業費 : 480百万円 うち補助金(改修(特重)事業) 192百万円(補助率 4/10)  
事業内訳 : 岸壁(285百万円) 泊地(195百万円)

### 2. 見込まれる効果

- 岸壁の増深(水深-4.0m→-5.5m)により大型船舶の利用が可能となり、従来の3倍の貨物を一度に輸送することができ、輸送の効率化が図られる。

◆利用船舶の大型化に対応 (DWT: 載貨重量トン数)  
〈整備前(水深-4.0m)〉 〈整備後(水深-5.5m)〉  
貨物船 600DWT → 貨物船2,000DWT

- エプロン幅の拡大(6m→15m)により、積卸しの作業効率が格段に向上し、日明地区における利用企業の利便性が向上することが期待されている。

### 3. 利用企業のコメント

- 日明では主に鋼材の荷役を行っている。近年、物流の効率化を目的として貨物船が大型化してきているが、従来の水深では限られた船舶しか着岸できなかった。増深に伴い、これからは作業効率の向上、荷役時間の短縮が図られることを期待している。

<問合せ先>  
北九州市港湾空港局整備課(Tel. 093-321-5975)  
担当: 松田(信)、稲垣、牛島



#### 岸壁完成による効果 ①

岸壁を増深したことで、  
 (水深-4.0m → -5.5m)  
 大型船舶の利用が可能となり、  
 従来の3倍の貨物を一度に  
 輸送することが出来ます



#### 岸壁完成による効果 ②

既存物揚場を9m前出したことで  
 (エプロン幅6m→15m)  
 積卸しの作業効率が格段に向上  
 します